▲愛知用水事業の水源施設として昭和36年に完成した牧尾ダム

毎年恒例の「友好の森ふれあいツアー」が、9月28日に長野県木曽町三岳地区にある「みよし市友好の森」で行われました。

今回は、みよし市に水の恵みをもたらす、愛知用水の水源地でもある御嶽山麓にある、友好の森の概要と友好の森ふれあいツアーの様子を紹介します。

みよし市友好の森と愛知用水

みよし市友好の森は、長野県木曽町の御嶽山麓にある森林で、平成3年度と平成11年度に取得しました。これは、みよし市の発展の礎となっている愛知用水（木曽川）の水源保全のため、また御嶽山麓の森林が、水源地だけではなく自然体験、環境教育の場など、みよし市の福祉の増進のための受益地の役割も担っているとの認識に基づき「地域環境への貢献」「環境教育の向上」「友好交流の促進」を目的に取得したものです。

●友好の森の概要

▼所在地＝長野県木曽郡木曽町三岳1－11他

▼面積＝378、415・49㎡

▼設備など＝あずま屋（1棟）、入口案内板（1基）、サイン設置（12カ所）、啓発用看板（2基）、散策路（6㎞）

▼林状＝ヒノキ（45年から60年生）、アカマツ（30年生）、針葉樹（50年から160年生）など、およそ38、000本

▼取得年＝平成3年5月8日、平成12年1月24日

●愛知用水（木曽の水）

みよし市は、昔から水不足に苦しみ、小河川や100余りのため池からの引き水で、干ばつと闘った先人の永い開拓の歴史がありました。こうした水を熱望する農民の願いは、木曽川水系の水源地を高度に利用しようとする「愛知用水」の構想を生み出しました。昭和36年、愛知用水の通水以来、御嶽山の麓を水源とする「木曽の水」が、みよしへの絶え間ない流れとなりました。この用水は、農業用水として、さらには上水道や工業用水として活用され、農業近代化の促進や工業発展の基礎となり、今日のみよしを築く大きな力となりました。

友好の森ふれあいツアー

友好の森ふれあいツアーは、森林での除間伐体験などを通して、楽しみながら水源地の環境保全や森林の大切さを市民の皆さんに学んでもらおうと、平成15年度から毎年開催しています。

※この事業は、木曽森林管理署、木曽森林ふれあい推進センター、長野県木曽地方事務所、木曽町、木曽森林組合にご協力をいただいて実施しています。

●友好の森ふれあいツアーの流れ

①木曽町・みよし市交流式典、昼食

両市町の代表者があいさつを交わした後、木曽町の皆さんから豚汁のサービス

▲午前8時にみよし市を出発して午前11時30分に到着。式典の後には木曽町の皆さんが作った豚汁が振る舞われ、自然に囲まれながらおいしくいただきました

11月5日(火)午前8時から、コミュニティFM、ラジオ・ラブィート(78・6MHz)の「みよしモーニングニュース」で、久野市長がコラムの内容を話題に生出演します。

連載第119回

コラム Column

女子大生チームの雄姿に涙

10月17日、第21回全国女性消防操法大会が、横浜市消防訓練センターで開催され、愛知県代表として「みよし市消防団機能別分団」に所属する東海学園大学の女子学生が出場しました。女性の全国大会は2年に1度開催されており、みよし市は昭和60年以来、2度目の参加です。

参加選手は、地域と共に生きることを目的に結成され、日ごろから青パトなどで地域の見回り活動などをしてくれている東海学園大学「チームともいき」のメンバーの中から選ばれ、1回生5人、2回生2人の7人で編成されています。私もぜひその雄姿を一目見ようと、議長、消防団長らとともに現地へ応援に行きました。大学からは、チーム生みの親でもある加藤教授をはじめ、「チームともいき」の仲間たちおよそ30人が、そろいのTシャツ姿で駆け付けてくれました。

全国大会に向けて、5月から尾三消防みよし消防署で特訓が始まり、10月までの6カ月間、授業を終えてからの訓練となりましたが、本当に良く耐え頑張ってくれました。選手たちの多くは、これまで消防操法など見たこともなく、まして自分が実践することになるとは夢にも思っていなかったことでしょう。市内出身者は一人もなく、遠くは浜松市や大垣市の学生たちが、みよし市のことも消防団のなんたるかも分からないうちに、加藤教授に誘われるがまま選抜されたとか…。

大会当日は、台風26号の影響で吹き返しの風が強く選手たちは苦労したようです。また、整列しているときには「あなたたち若いわね～！」と他県の参加選手から声を掛けられる一幕もあったとか。操法は、くじ引きでトップの出場となったため多少堅さは見られたものの、きびきびとした素晴らしい出来栄えでした。

操法を終えてからの報告では、隊長を務めた長谷川さんは、要員ではなかったものの隊長としてチームをまとめてきた重圧から解放された安堵感と感激から、止めどなくなく流れる涙をぬぐっていました。私も応援しているときから込み上げるものがあり、思わず涙してしまいました。みよし市のために頑張ってくれたチームの皆さんと、指導してくれた尾三消防みよし消防署、そして応援をいただいた全ての皆さんに感謝を申し上げます。

「チームともいき」の活動の発展と、学生の皆さんの活躍にも期待しています。

みよし市長 久野知英

②森林散策

各班に分かれ、指導員から森の機能や間伐についての説明を聞きながら、友好の森の南口から北口まで散策します。

▲指導員から森林は降った雨を蓄えゆっくりと川に流し、私たちにさまざまな恩恵をもたらすなど森林が持つ役割について説明を聞きながら、子どもたちも慣れない山道を一生懸命歩きました

③間伐作業体験

一本一本の樹木が適度な間隔を保ち、太陽光が木の根元や地面まで届くように、一部の木々を間引いていきます。

▲みよし市の水源地である木曽の森林が豊かに育つことを願い、普段は使うことが少ないのこぎりで間伐作業を体験しました

◆「友好の森ふれあいツアー」の様子は、ケーブルテレビひまわりネットワーク「さんさんチャンネル(123ch)」の番組『刻(とき)の遺産』の中でも紹介されています。

▼番組タイトル＝「大地を潤し命を育む愛知用水」(再放送あり)

▼放送予定＝11月3日(日)まで

▼その他＝『刻の遺産』は、地上デジタル12ch「ひまわり12」でもご覧になれます。放送時間などについては、チャンネルガイドなどをご覧ください。